
[成果情報名] 植木苗のEU向け輸出のための線虫防除による生育障害対策技術

[要約] 植木苗のEU向け輸出のための線虫防除（根洗い+薬剤処理）は、ツバキでは輸出前年度の夏～秋季、ツツジでは冬季に行い、防除後は遮光条件下で管理し、ツバキにおいては、同時に4週間のミスト灌水を行うことで生育障害を抑制できる。

[キーワード] ツバキ苗、ツツジ苗、輸出、線虫防除、生育障害

[担当部署] 苗木・花き部；花きチーム

[連絡先] 0943-72-2243

[対象項目] 花木・緑化木 [専門項目] 栽培、流通利用 [成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

植木苗のEU向け輸出において、線虫防除（根洗い+薬剤処理）による生育障害（葉の萎凋、枝枯れ、枯死）が問題となっている。そこで、高品質な植木苗を安定的に輸出するため、ツバキ、ツツジ苗を用いて、生育障害の少ない線虫防除技術を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. 輸出作業スケジュールについて、植木苗の線虫防除は、輸出前年度の夏～秋季（ツバキ苗）、または冬季（ツツジ苗）に実施し、その後、ピートモスを用土として鉢上げし、遮光条件下に設置する。灌水管理は、ツツジ苗では設置時より手灌水で行うが、ツバキ苗では、設置時から4週間はミスト灌水を行う（図1）。
2. 線虫防除を時期別、薬剤別に実施すると、ツツジ苗では、枯死株が夏季の一部で見られる程度であるため、線虫防除は、作業が容易な冬季に実施するのが適切である。一方、ツバキ苗では、1年を通して枯死株が発生しやすい（図2）。
3. ツバキ苗において、枯死株の発生を抑制するためには、線虫防除後にミスト灌水を行うことが有効である（図3）。
4. ツバキ苗の線虫防除時期は、ミスト灌水を行っても春季では新梢が枯死し、冬季では翌年の新梢伸長が不良であるため、夏～秋季が適期である。また、ミスト灌水期間は、生育障害株率が低い4週間が適切である（図4、一部データ略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 県内植木苗のEU向け輸出の促進が図られ、需要拡大による生産者の所得向上が期待できる。
2. 実際の輸出に際しては、植物防疫所の輸出入条件詳細情報（<https://www.maff.go.jp/pps/j/search/detail.html>）を参考にするとともに、最寄りの植物防疫所で最新の検疫条件（線虫、対象病害虫、輸入許可証、栽培地検査の要否）を確認する。
3. 遮光条件は50%遮光、ミスト灌水条件は、6～18時に1時間毎2分間実施する。
4. ピートモスは、無調整ピートモス1Lあたり2gの炭酸苦土石灰を混和したものをを用いる。
5. 2～3年生植木苗を用いた結果である。
6. 線虫防除薬剤は、線虫の種類によって防除効果が異なるため、想定される線虫の種類に応じて複数の薬剤を使用する必要がある。

[具体的データ]

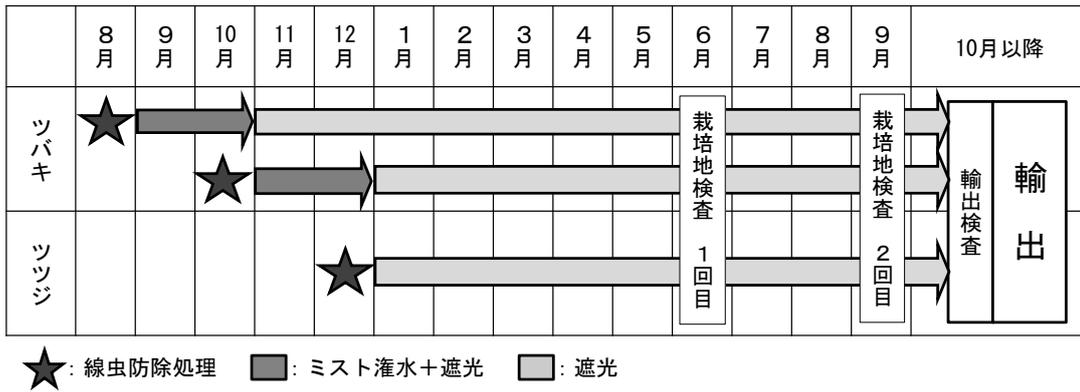


図1 タバキ、ツツジ苗の輸出作業スケジュール

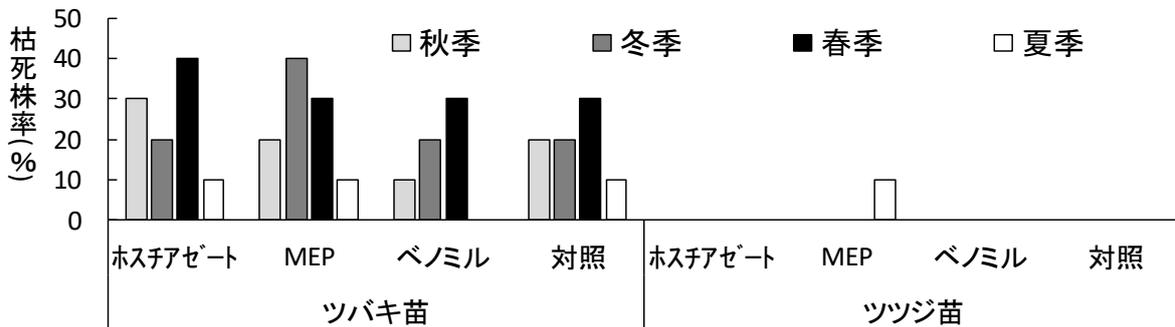


図2 時期別、薬剤別に見た線虫防除がタバキ、ツツジ苗の枯死株率に及ぼす影響 (平成28、29年)

注) 1. 各品目 20 株/試験区。防除処理は、根洗い後に各薬剤の登録濃度、時間で根鉢浸漬処理。対照は、根洗いのみを実施
2. 処理後は遮光条件下で手灌水管理

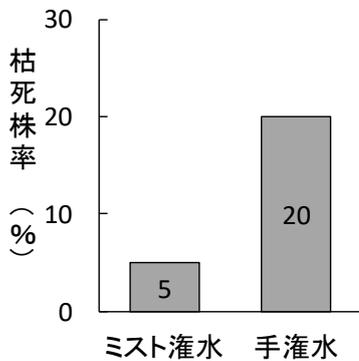


図3 タバキ苗における線虫防除後の灌水方法が枯死株率に及ぼす影響 (平成29年)

注) 夏季処理、20 株/試験区、遮光条件下で実施

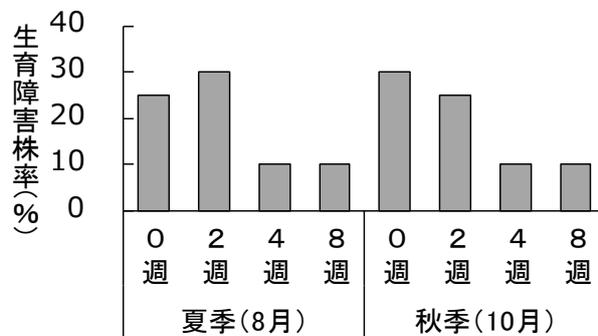


図4 タバキ苗における線虫防除時期、ミスト灌水期間別の生育障害株率 (平成30年)

注) 20 株/試験区、遮光条件下で実施

[その他]

研究課題名：植木類の輸出における線虫事故防止技術の開発及び実証

予算区分：国庫（革新的技術開発・緊急展開事業、地域戦略プロジェクト）

研究期間：平成30年度（平成28～30年）

研究担当者：近藤孝治、瀬戸山修仁、井樋昭宏、巢山拓郎、國武利浩

発表論文等：園芸学研究第16巻別冊2